

9. 雨よけ栽培トマトにおける褐色輪紋病の発病しやすい温湿度条件（情報）

[要約]

県北の雨よけ（傘型）栽培トマトの褐色輪紋病は、平均気温 24℃以上、平均湿度 85%以上の高温かつ高湿度の日が2日以上連続すると、初発生や病勢進展しやすい。

研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543
------	-------	-----	--------------

[背景・ねらい]

トマト現地圃場における気温、湿度が褐色輪紋病の初発生およびその後の病勢進展に及ぼす影響を明らかにし、防除対策の資料とする。

[成果の概要・特徴]

1. 平成 14 年は 7 月中旬～9 月上旬に 2 日以上連続して日平均気温 24℃以上、日平均湿度 85%以上となった日が 6 回みられ、そのうち 4 回では 4～10 日後に A 圃場、B 圃場のいずれかで初発または病勢進展がみられた（図 1）。A 圃場で発生が少なかったのは殺菌剤散布が十分行われていたためと考えられた。
2. 平成 15 年は 8 月に連続する日が 3 回みられたが、A 圃場、B 圃場とも初発および病勢進展はみられなかった。これは 8 月の殺菌剤散布回数が前年に比べて多かったためと考えられた。9 月以降には連続した日が 2 回みられたが、本病以外に葉かび病も発生しており、初発や病勢進展との関係は判然としなかった（図 2）。

以上の結果から、県北のトマト雨よけ（傘型）栽培の褐色輪紋病は、日平均気温 24℃以上かつ日平均湿度 85%以上の高温、高湿度の日が 2 日以上連続すると初発生がみられたり、病勢が進展しやすい。

[成果の活用面・留意点]

1. 本情報は県中北部の雨よけ（傘型）栽培トマトで活用できる。
2. 7～8 月の蒸し暑い雲雨天日は、日平均気温 24℃以上、日平均湿度 85%以上の条件を満たすことが多いが、薬剤散布をすることにより発病を抑えることができる。

[具体的データ]

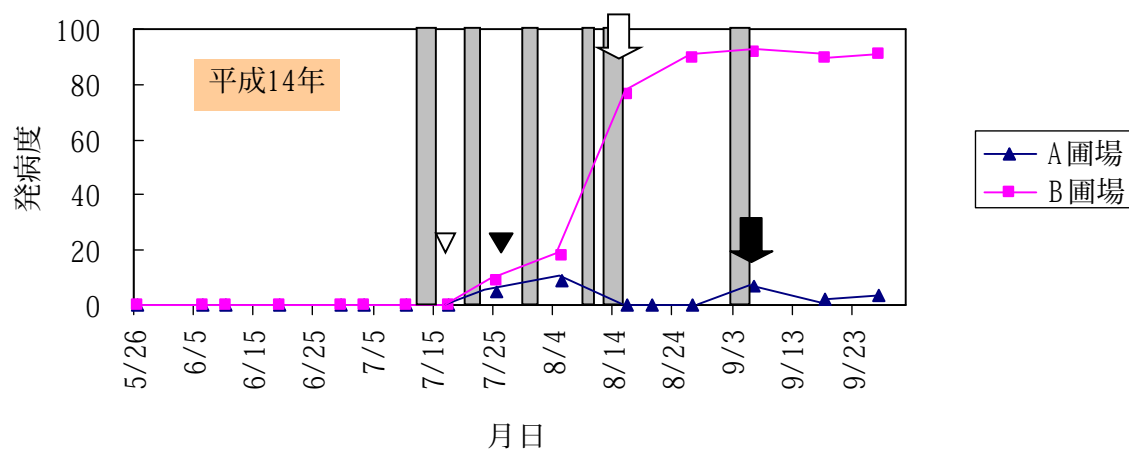


図1 トマト褐色輪紋病の発病推移（平成14年）

[初発生] ▼：A圃場、▽：B圃場

[病勢進展] ↓：A圃場、⇩：B圃場

(■：2～6日連続して日平均気温 24℃以上、日平均湿度 85%以上となった日)

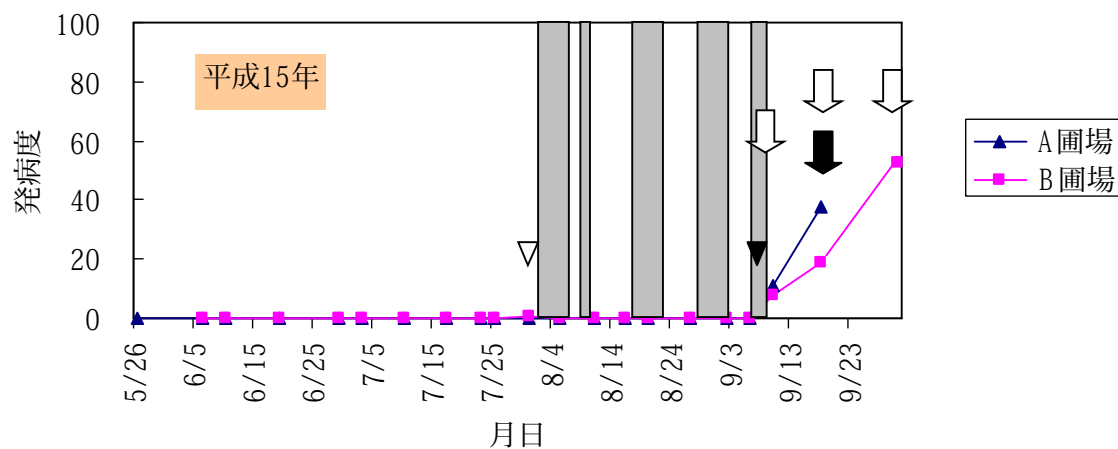


図2 トマト褐色輪紋病の発病推移（平成15年）

矢印は図1と同様

(■：図1と同様)

[その他]

試験研究課題・事業名：コリネスポラ菌によるトマト褐色輪紋病、キュウリ褐斑病の発生態の解明と防除対策

予算区分：国補（病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立事業）

研究期間：平成13～15年度

関連情報等：平成13年度主要成果 トマト褐色輪紋病の発病しやすい温度及び保湿条件